

医療イノベーション5か年戦略 中間報告

平成24年5月10日
内閣官房

医療イノベーションによる成長戦略

成長戦略を目指すうえで、「産業」の視点が弱い「医療分野」をどう育成するか

【日本の医療の強み】

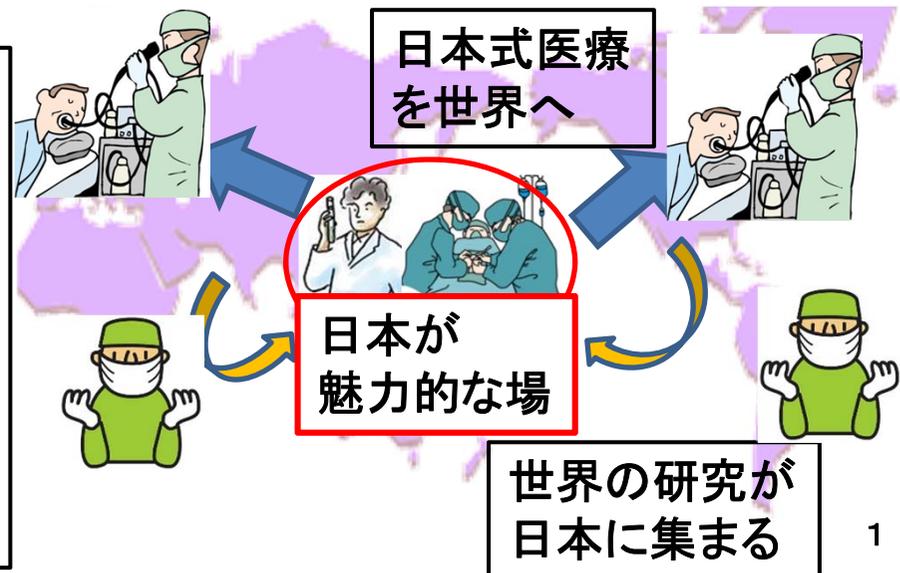
- ・全ての国民に提供できる平均医療の水準の高さ（世界最高の平均寿命を実現）
- ・きめ細かさ、ホスピタリティ、親切、丁寧な「安心・癒しの医療」

【日本の医療の弱み】

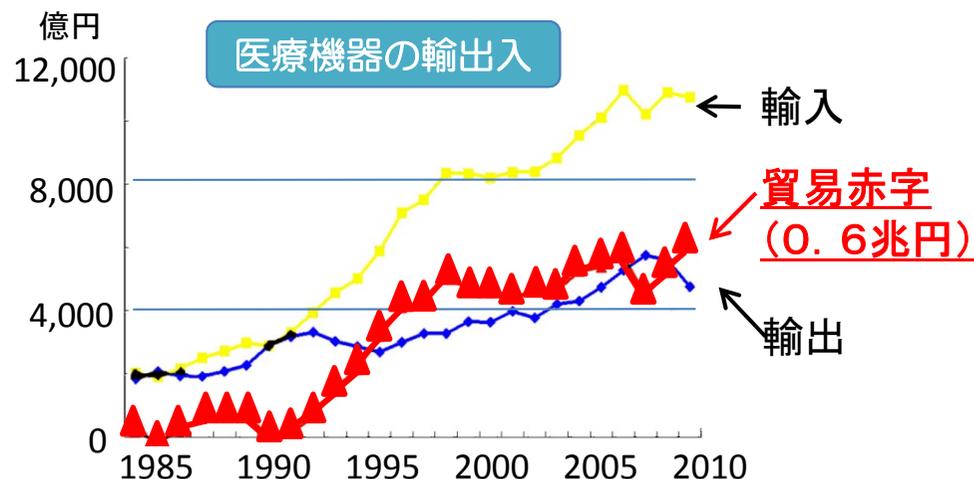
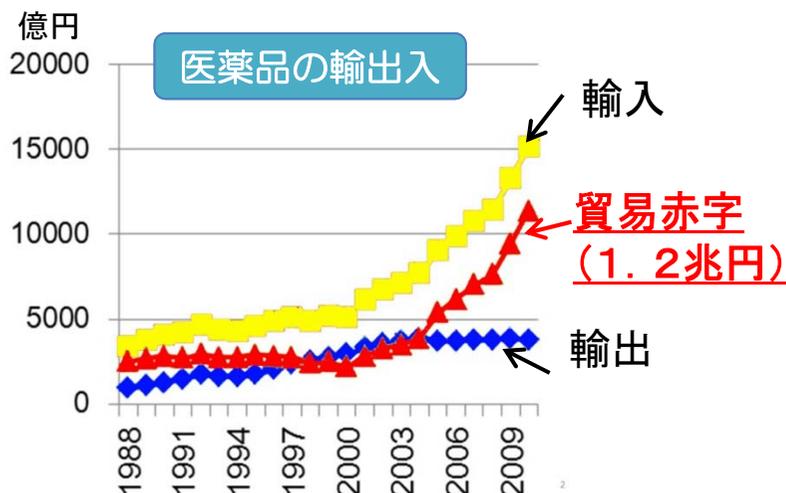
- ・革新的な技術が実用につながりにくく、最先端医療で世界に遅れ
 - 日本の優秀な研究者が海外流出
 - 世界から日本に医師・研究者が集まらず、世界で日本医療は馴染みが薄い

- 国内の研究開発環境を改善。日本を国内外の研究者が集まる魅力的な場に
- 日本の医療をパッケージインフラのソフト版として海外に展開。海外から国内へも呼び込む。

⇒日本式の医療を世界に広め、日本の医療産業の市場拡大・大きな成長を目指す



医療イノベーション推進に係る現状と課題



国をあげた医療イノベーションの取り組みで、国内の研究開発環境を改善
特に以下の分野で重点的に取り組み

① 高齢化社会の疾病(がん等)に対応した薬を作れない

(例:国民の半数が、がんになる時代なのに、国内でがんの新薬が殆ど生まれない)

→ がんの新薬など革新的な医薬品の開発

② 日本の強みが生かせていない

→ 「ものづくり力」を活かした医療機器の開発

→ iPS細胞など世界最高研究水準の再生医療の実用化

③ 世界的な潮流に遅れている

→ 個人ゲノム情報に基づく副作用の少ない個別化医療

現在、今後の5年間の取り組み「医療イノベーション5か年戦略」を作成中。
6月初めに取りまとめ予定 →「日本再生戦略」にインプット

医療イノベーション5か年戦略の主な施策

国内で実用化を進める上での弱点を重点的に補強



①研究資金の集中投入

重点分野への集中支援の強化。(24年度から実施)

②創薬ネットワークによる実用化支援の強化

医薬基盤研を中心としたネットワークを作り、国内の有望技術を選んで、応用研究を実施し、企業による実用化につなぐ。(24年度から取組開始。25年度中に連携基盤の構築及び研究指導・助言機能の強化、26年度ネットワーク構築)

③臨床試験の環境作り

海外より日本で先に臨床試験を行えるように、専門性と必要な機能を集約したセンターを核に複数病院をネットワーク化し、世界レベルの大規模臨床試験を効率的に実施する体制を構築。(24年度中にネットワーク機能を有する臨床研究中核病院を整備)

④迅速に審査できる体制強化

PMDA審査員の増員、相談機能の拡充、審査におけるアジアとの連携(24年度から実施)

日本の得意分野を伸ばすための重点支援

⑤医工連携の医療機器開発支援と海外展開

中小企業と病院の共同開発の支援強化(24年度から実施)
病院・医療機器が連携した海外展開の支援強化(24年度から実施)

⑥医療機器の特性に鑑みた規制のあり方の検討

医療機器の特性を踏まえた制度改正・運用改善を検討(24年度中に改善に着手)

⑦再生医療の重点化・実用化支援

長期間を要する研究への支援、重要分野への支援集中、評価手法・装置などの基準作り・国際標準取得支援の強化。(24年度から実施)

世界的な医療革新への対応

⑧個別化医療への対応

ゲノム研究、医療データの収集・解析、ゲノム収集施設の統合・大規模化、医療体制・医療ICT基盤整備(24年度から実施)
(※東北地方の医療復興のために、先進的に取り組みを開始(東北メディカル・メガバンク計画)(24年度中に体制構築・事業開始))